



▲日本共産党札幌市議団は、同様の共同住宅・施設等の実態を緊急に調査して必要な対策を講じること、住宅・施設の運営団体の現状把握と支援を急ぎ、市営住宅を拡充するよう市へ緊急要望をしました。



▲平岡市議らは2月1日朝、火災現場に駆け付け、犠牲者を悼みました。



▲市営住宅不足について、質問する平岡市議(昨年10月決算特別委員会)



▲現場調査で消防から状況を聞く、平岡市議ら(日本共産党国会議員団・市議団とともに)

東区・共同住宅火災 背景に住まいの貧困

1月31日夜に起きた共同住宅の火災について、入居していた16人中13人が生活保護を利用しており、そのほとんどが65歳以上の単身高齢者でした。

た高齢者にとってこの施設が適切だと認識していたのでしょうか。行政側のこれまでの認識が厳しく問われる問題です。

市のケースワーカーは定期的な訪問などを通じて施設の内容を知りうる立場にあります、病気や障がいを抱え

生活困窮者や高齢者にむけた公営住宅が決定的に不足しており、結果としてこうした民間の住宅に頼らざるを得

ないのが現状です。自立した生活が困難になった場合でも、誰もが費用の心配なく入居できる公的施設や住宅の整備が必要です。

高齢で行き場を失った人たちの公的施設が支えることには限界があります。市は国の援助も求め、公営住宅や特別養護老人ホームなど公的支援策を抜本的に拡充すべきです。

「住まいは人権」

「公営住宅が足りない」

「施設のあり方適切だったのか」



▲創成川通の調査をする平岡市議

「ばく大な建設費用」

北海道開発局が発表した試算によれば、地下トンネルの場合の建設費は1040億円にも上ります。

市が2026年に招致を目指している冬期オリンピックには最大で4565億円の経費がかかると言われていますし、高齢化にともない社会保障費が増えるなかで新しい道路建設に巨額の税金を投じるべきではありません。

「都心アクセス道路 いらないうっしょ」

※ 都心アクセス道路とは…

札幌新道から北3条通りまで(約4キロ)をつなぐ高規格道路の整備計画であり、地下トンネル案が有力視されています。



▲混雑なく流れています。

「渋滞は深刻？」

なぜ道路が必要なのか、市は「創成川通の朝夕のラッシュ時の渋滞を解消するためだ」と説明しています。

しかし市の資料によると、創成川通の混雑度はレベルの一番低い「混雑度1.0未満」であり、「昼間12時間を通して道路が混雑することはほとんどなく円滑に走行でき、渋滞やそれに伴う極端な遅れはほとんど生じない状態」とされています。

混んでもいない道路の渋滞解消のために新しく道路をつくる道理はありません。



▲除排雪にこそ力をいれるべきでは

この都心アクセス道路の建設を許してしまえば、都心への車の流入はいっそう進み、それに伴う渋滞や事故、騒音や排気ガスによる環境の悪化につながります。

道路の渋滞の解消が目的であれば、交差点の改良や道路の除排雪にこそ力をいれるべきです。

生活相談
TEL 011-752-1266

ご相談内容は秘密厳守いたします。
不在の場合はお名前と連絡先を
留守番電話にお残してください。

お気軽に
ご連絡ください